

ユーザーニーズを第一に

巻頭言

令和4年度特許庁技術懇話会 代表幹事 後藤 泰輔

令和4年度特許懇代表幹事を務めております後藤泰輔と申します。特許懇会員の皆様をはじめ、関係する方々、いつも当会の活動をご支援くださりありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

今年度の特許懇の活動を始めて半年が過ぎました。この巻頭言を執筆している10月上旬、新型コロナウイルスの国内の感染者数は落ち着きつつあり、また、感染者の療養期間の短縮や入国制限の緩和など、以前の日常を取り戻す方向に世の中が大きく動き始めていると感じています。今年度も懇親会の開催は断念せざるを得なかったものの、会員同士の親睦と研さんを図る、という当会の目的を忘れずに、活動を進めていきたいと思っています。

さて、私は代表幹事に就任する直前まで、独立行政法人に出向しており、日本企業と海外企業との協業・連携を支援する活動を行ってきました。サービス利用者（ユーザー）である企業様に近い位置で仕事をする中で、常に意識していたことは、ユーザーのニーズに耳を傾けること、そして、ニーズをふまえて実際に何かをやってみること、です。この繰り返しにより、ユーザーのニーズに共感するとともにサービスを洗練させていくことができます。出向する以前には、特許庁で、デザイン経営プロジェクトチームや、新時代の特許庁に向けた検討WG^(※1)にも参加していましたが、その中で経験したデザイン思考の考え方にも通じるものがあるかと思っています（デザイン思考が何であるかについては議論があるかと思いますが、ここでは上記の程度の記載にとどめますことご容赦ください）。そし

て、この考え方は特許懇の活動にも活かせるものだと信じています。

少し話がそれますが、ここ数年、特許庁でも働く環境が大きく変化しており、それに付随して、今まで当たり前だったことが当たり前ではなくなってきました。フリーアドレスの導入もその一つです。全庁的なフリーアドレスの普及に併せて、本当の意味でのペーパーレス化（電子媒体も紙も保有するのではなく、紙を保有せず電子媒体のみにする）も進んできていると感じています。そのような中、当会の会員の方から、『フリーアドレス化に伴い、保有している紙を削減したいので、特許懇が過去に発行した冊子のうち個人情報を含むものについて運営側で回収してほしい』、との要望がございました。これを受けて、6～7月にかけて、運営側でとりまとめて回収作業を行いました。働く環境の変化に併せて、こういったニーズをいただく機会は増えていくと思っています。

私を含め特許懇常任委員会メンバー（常任委員、常任幹事）は運営側であるとともに、特許懇のユーザーでもあります。我々がこれまでに感じてきたことを中心に少しずつ特許懇の仕組みを改善するよう努めているところですが、皆様からのご要望・ニーズをいただくと、より一層のサービスの改善につながると思います。ささいなことでも結構ですので、改善につながることはお気軽にご連絡いただけますと幸いです。

今後も皆さまと共に、特許懇をよりよい場にしていきたいと思っています。引き続きご協力、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

(※1) 新時代の特許庁に向けた検討WGの活動内容の紹介，特許懇，2019.9.24. No. 294, pp. 24-30